

職

職場体験学習

岩沼市立岩沼西中学校の2年生
(5名)が参加しました。

仙台河川国道事務所で行われる職場体験
支援活動としては、今年度最初ということも
あり、事務所としても新たな気持ちで迎え入
れることとなりました。

初日の待ち合わせ場所となった岩沼出張
所へ緊張した面持ちで集った5人の岩沼西
中生5人。元気のよい挨拶で体験1日目がス
タートしました。

岩沼出張所管内で体験スタート

岩沼出張所は、事務係、技術係、管理係の
3組織からなり、岩沼市・柴田町、亘理町を
流れる阿武隈川の改修及び維持・管理の業務
を行っています。また、管内の河川に関する
許認可や問い合わせの窓口になっています。

はじめに、仙台河川国道事務所 岩沼出張
所の八木出張所長から、河川管理の話しや岩
沼出張所の仕事内容について、ひととおり説
明がありました。続いて大越事務係長から出
張所の事務室にあるモニターなどの説明を
受け、早速仕事の一端を垣間見ていただくと
なりました。

阿武隈大堰管理分室へ

阿武隈大堰は、河道の安定、農業用水等の
取水の確保を目的として、阿武隈川の岩沼市
と亘理町にまたがってつくられた可動堰で
す。阿武隈大堰管理分室では、阿武隈川の洪
水時の堰の操作の他、機器の点検、修繕を行
っています。

5人が案内されたのは、阿武隈大堰管理分
室の執務室に併設された管理室。眺望の効い
たこの部屋から見える阿武隈川に架かる堰
の全景と、モニターや操作パネルの並んだ状
況に、始めはやや緊張気味の様子でしたが、
佐藤管理係長の説明に真剣にメモを取る姿
が印象的でした。
説明が終わった後は、外に出て大堰で実際
に稼動している機械室を見学します。巨大な
巻き上げ機の様子や、水の流れ落ちる爆音に、
先ほどの管理室とまた違った緊張が走りま
す。

仙台河川国道事務所の

職場体験 5月15日～16日

岩沼市立岩沼西中学校

今回、職場体験を受け入れることになった
岩沼市立岩沼西中学校は、岩沼市の西部「千
貫地区」の地丘陵地に位置し、自然に恵まれ
た学校です。「自ら学び 心豊かに たくま
しく生きる生徒の育成」を教育目標として教
育活動を展開し、昭和61年4月に開校し今
年で創立27年目を数えます。



工事現場で測量体験

お昼をはさんで、阿武隈川の下流に位置す
る堤防災害復旧工事の現場へ移動。今度は、
測量の体験です。現場を受け持つ阿部建設監
督官や、工事関係者のスタッフから、説明を
受けてから測量開始です。高さを測るオート
レベルや光波測距儀（こうはそつきよぎ）：
測定点にプリズム反射鏡を置き反射してく
る光波の測定により距離を測定する装置：
は、もちろん5人ともはじめて触る測量機器
でしたが、しっかり説明を理解した皆さんは、
短時間でかなり正確な測量結果を導き出す
ことが出来ました。あっぱれ！

体験1日目のラストは、現場で実際に活躍
しているタイヤローラーの試乗です。わずか
な距離ではありましたが、工事現場で見かけ
ることはあっても減多に乗るチャンスの無
いこの車両。高い乗車位置から眺める風景は
きつといつもと違って見えたことでしょう。





職場体験2日目

2日目の天気予報は、晴れのち雨ですが、今朝は本当に雨が降るのかな？と思うほどの清々しい晴天です。午前の部は屋内施設見学ばかりですが、午後は「釜房ダム管理所」で、湖面巡視が出来ることを伝えていましたので、午後からの天気が非常に気になると思います。

まずは本日最初の見学場所「共同溝」に向けて出発です。「共同溝」とは、仙台市内中心部の地下に位置する延長15.5kmにも及ぶ秘密の!?地下空間のこと。



共同溝とは、

電気・水道・ガス・上下水道・通信など日常生活に欠かせないライフラインを道路の地下につくったトンネルにまとめて収容する施設のことをいいます。

現地で5人を待っていたのは、共同溝の管理を担当する仙台西国道維持出張所の田村機械係長と協力会社のスタッフ。ヘルメットを受け取り、まずは「共同溝」に入る前の注意事項について説明を受け、いよいよ秘密の地下空間へ潜入開始。

「えっ！ここから入るんですか？」

意外なというか、なんてことない道路脇から潜入した「共同溝」は、地上からは想像のつかないまさに異空間。興奮を抑え、案内されるまま徐々に奥に進むにつれ次第に5人の方向感覚は麻痺してきます。

「トンネルを掘削するのに使ったのが、シールドマシンと呼ばれる円柱状の巨大な掘削機械でした。」

「知ってます！」

田村係長の説明に意外な反応をした岩沼西中生。担当する係長ですら、仕事に就くまでその詳細は知らなかったそうですから、すごいですね。

モニターが映し出す「西道路」

共同溝の次は、仙台西道路管理所で道路管理の勉強です。この管理所では、自動車専用道路である「仙台西道路」の管理をするため、24時間モニターや計測機器を監視しながら通行する車や、施設の管理をしています。管理所に来る時に通ってきた西道路をここでモニターを眺めながら説明を受け、道路管理の最前線を実感した5人でした。



都市部を抜けて新緑の釜房ダムへ

新緑の山に囲まれた釜房ダムは、湖面に空と木々の緑を照らしてキラキラと輝いています。どうやら天気は大丈夫のようです。

釜房ダムは、宮城県仙台市の西方約2.5km、一級河川名取側の支流・碓石川に位置した多目的ダムです。昭和45年に完成以来、百万都市の仙台市の水瓶として、生活用水や工業・農業などに必要な水を供給する他、釜房ダム発電所では発電も行っています。

釜房ダム管理所に併設された「ふれあい学習資料館」で今度はダムの勉強です。釜房ダムの規模や歴史、ダムの働きや構造などをパネルやスクリーンを使って説明を受けた後、屋上へ上がって双眼鏡から現場を確かめました。「湖面に浮かんで見えるのが、水質を保全するために設置してある曝気システムです。」説明のあった場所に双眼鏡を向ける姿をパチリ。管理所の事務室に移ってからは、職員の監視に使うモニターがここにも並んでいました。

水面から見るダム

最後は、お待ちかねのダム湖面巡視です。ライフジャケットを着込んで準備オケー。ボートに乗り込んで5人に渡されたのは、職員が実際に巡視に使用しているチェックリスト。項目を確認していざ出発。

湖面を滑るように走る巡視船からダム湖面を見渡します。道路の駐車帯から一部の心ない人が投げ捨てたゴミを確認したり、曝気システムを間近で見学したりした後、2日間の職場体験は終わりました。

最後にひとりずつ2日間の感想を述べて終了。お疲れ様でした。

